

4月から始めたい

ルーティーンワークと仕切り直しのシステム

加印いそえんぴつ 岸本ひとみ

学力づくりと授業づくりは、学級づくりの根幹です。しかし、学級編成のあったクラスや、転任後初めて担任するクラス、専科授業の場合など、子どもたちの人間関係がまだ把握できていない時期には、無理ができません。4月から2カ月ぐらいいの間は、学力づくりのシステムを整えることで、指導する側と子どもたち、お互いの信頼関係を築いていくことを優先するべきでしょう。

ルーティーンワークにしましょう

辞書によると、ルーティーンワークというのは「毎日行う決まりきった手順」とあります。授業の始めや、帯タイム等を使って、日課に組み込んでしまうのです。よくあるのは、読書の時間とセットにして、音読や計算タイムを設定してしまうことで、4月からだと、英語の時間を設定する学校

計算ずもう()算場所 年 組 名前()

	初日	二日目	三日目	四日目	五日目
日付(曜日)	月 日()	月 日()	月 日()	月 日()	月 日()
タイム	分 秒	分 秒	分 秒	分 秒	分 秒
点数	()	()	()	()	()
勝ち負け					
	六日目	七日目	八日目	九日目	千秋楽
日付(曜日)	月 日()	月 日()	月 日()	月 日()	月 日()
タイム	分 秒	分 秒	分 秒	分 秒	分 秒
点数	()	()	()	()	()
勝ち負け					

勝ち...○
 負け...×
 同じ...△

記録: 勝 敗 分 休

も多いことと思います。英語と音読という組み合わせもいかもしれませんね。

システムを整えるまでは、時間がかかるので、授業時間に食い込んでしまうこともあります。でも、2週間もすれば、子どもたちの手順もよくなって、時間が短縮されていきます。私が今年担任している1年生の子どもたちも、2月から50マス計算の足し算ずもうにチャレンジしていますが、最初はなかなかうまく進まず、プリントを配って答え合わせ、すもうカードに記入し終わるまでに、15分ほどかかっていました。すぐに慣れて、1週間で5分になりました。1年生でこの様子ですから、他の学年ならもっと早くできるようになると思います。

音読でも同じです。

- ・月曜・初見で連れ読み
- ・火曜・一斉音読
- ・水曜・班ごとに音読
- ・木曜はリレー読み等

というふうに毎日少しずつ進化させていくと、飽きずに取り組むことができます。題材は短い詩がおすすです。高学年だと古典。低学年だと「のはらうた」がおすすめ

です。題材に困った時は、水内喜久雄さんの「教室で読みたい詩」シリーズの中から選ぶといいでしょう。どこの学校でも職員図書として置いてあると思います。

どの取り組みでも大切なのは、自分が以前よりもできるようになってきていると感じられる進め方にあることです。このことよって「この先生は信頼できる」と、子どもたちが納得できれば、少しずつクラスの様子が落ち着いていきます。

〇仕切り直しのできるシステムを

もうひとつのポイントは、仕切り直しができるシステムであることです。いくら効果があるからといって、ずっと同じマス計算を続けていたのでは、計算の苦手な子どもが折れてしまいます。低学年でも長くて1か月。中学年以上だと、2週間から3週間で、違うものと変えていく必要があります。

◇低学年の例

1年生・1学期の間は読み聞かせ
2年生・4月 音読 週ごとに1編ずつ
5月 50マス計算 たし算
50マス計算 ひき算

◇中学年の例

3年生・4月 100マス計算 かけ算
100マス計算 たし算
5月 100マス計算 ひき算
音読
4年生・4月 音読
100マス計算 かけ算
5月 たし算
ひき算

高学年になると、クラスの実態に応じて、実態調査を先に行ってから、どこを強化していくのかを判断しなければなりません。

苦手意識の強い子どもが多いと、自信を喪失して、かえってクラスがさがさした雰囲気になってしまうこともあります。

何年か前に、これで手痛い失敗をしたことがあります。縦と横の座標が正確に捉えられない子どもがいたことを見逃していた、マス計算での彼の記録が全く伸びず、2週間もするとクラスの空気が微妙なものになってしまいました。始める時に、2週間は続けると宣言してしまっていたもので、引っ込みがつかず、撤退できなかったことが悔やまれます。

◇専科の場合は

わずかな経験ですが、学年全体の音楽を担当していた時期がありました。リコーダーの練習時間を毎回とることで、ルーティンワークにしていました。テキストは、もちろん「笛星人」です。また、音楽記号のフラッシュカードも有効な手立てでした。専科なので、1組と2組で全員が正しく答えられるまでの時間を計って競わせたり、ノーマスで全員が答えることを目標にしたりしました。もちろん、困った時は「パス」もありですが。

支援が必要な子どもたちにとっては、このルーティンワークの時間が毎回あるということは、心理的な負担をなくするための有効な手立てだということも学びました。クラスの子どもの心理状態が安定することが、クラスを安定させることにつながります。安心して取り組めるルーティンワークを、子どもの実態に応じて組み立ててみられてはいかがでしょうか。お手伝いはいくらでもさせていただきます。